

第4章 望ましい環境像と基本目標

4-1 望ましい環境像

地球温暖化などの環境問題は、環境と社会経済活動が深く関連しているほか、私たちの暮らしや豊かな自然環境に影響を与えています。

また、アンケート調査では、今後重点的に取り組む市の環境保全施策として、水資源や大気の保全及び騒音振動など、私たちの生活に身近な問題について関心が高いことがわかりました。さらに、市民会議からは、子どもから大人まで一人ひとりが環境を学び、できることから行動し、未来のみんなの笑顔につないでいくことが大切との提言がありました。

よりよい環境づくりを進めるためには、市民、事業者、市（行政）が、それぞれの立場と役割を認識するとともに、連携して環境問題を解決し、環境と社会の良好な関係を構築して次世代に継承する必要があります。

平成13年（2001年）3月に策定した千歳市環境基本計画では、望ましい環境像を、“**限りなく伝えよう いい空 いい水 いい緑 そして共生をめざして**”と掲げました。

この環境像は、澄んだ空と空港のまち、豊かな自然を擁する千歳市の特性を端的に表現しており、地球規模に広がる環境問題、社会経済情勢の移り変わりに伴うライフスタイルなど様々な状況が変化しても、後世にわたって千歳市の環境の在り方を示す普遍性をもった言葉です。また、市民会議からは、この環境像の実現は途上であり、達成に向けて意識の醸成や行動について取組を継続する必要があると提言がありました。

このことから、第3次計画の望ましい環境像は、これまでの環境基本計画の内容を引き継ぐこととします。

そして、望ましい環境像の実現につなげるためには、行動の指針・方向性が必要です。第3次計画では、環境像の実現に向かうための行動の指針・方向性を“**環境をともに学び、未来に向かってできることから行動しよう みんなの笑顔のために**”と掲げ、これを「副題」として付記します。

副題には、市民一人ひとりが千歳市の豊かな自然環境の知識を深め、協力しあい、環境保全の行動を実践するための願いを込めています。

千歳市環境基本計画(第2次計画)の環境像

限りなく伝えよう いい空 いい水 いい緑 そして共生をめざして
～環境を一人ひとりが見て・感じて・考え、ともに行動するまち ちとせ～



第3次千歳市環境基本計画の環境像

**限りなく伝えよう いい空 いい水 いい緑
そして共生をめざして**

～環境をともに学び、
未来に向かってできることから行動しよう みんなの笑顔のために～

《限りなく伝えよう》

豊かな自然と、そこに生息する多様な動植物、農業地帯の田園風景、整然とした工業団地などを、良好な状態で次世代に伝え続けていくことを意味します。

また、環境を保全する社会システムや環境にやさしい心を伝え、豊かな自然環境が限りなく続くことを願います。

《いい空》

きれいな空気、静けさ、さわやかな風を意味する一方で、“北のそら”の拠点である空港のまちを連想させます。

《いい水》

支笏湖、千歳川など、きれいで豊かな水と、そこに生息する多様な動植物を意味します。

また、おいしい水（名水）も連想させます。

《いい緑》

森林や公園などの身近な緑と、そこに生息する動植物、広大な風景などを意味します。

《そして共生をめざして》

豊かな自然環境を後世に伝えていくことが大切であり、人と自然がふれあいながら環境への負荷をできるだけ低減することにより、安心して暮らせるまちをつくり、全ての動植物と共生できる地球環境にやさしい社会を目指します。

また、北国の四季を肌で感じながら、自然を慈しむやさしい心を育みます。

《環境とともに学び、未来に向かってできることから行動しよう みんなの笑顔のために》

千歳市の恵まれた環境を次世代に引き継ぐためには、世代や主体を問わず、市民一人ひとりの行動が重要です。

市民、事業者、市（行政）は、千歳市の環境について理解を深め、できることから行動する必要があることを理解し、互いに協力しあいながら持続可能な環境、経済発展、社会の調和につながる取組を広げ、将来にわたり、みんなが幸せを感じ笑顔でいられるような環境を守り育んでいきます。

4-2 5つの取組分野の基本目標

これからの千歳市の環境政策において、望ましい環境像の実現に向けた取組を推進するため、社会動向や市民会議からの提言、各計画との整合を踏まえ、5つの取組分野ごとの環境づくりの基本目標を設定します。

市民会議からの提言

- 地球温暖化が、私たちの生活にも影響を及ぼす事態となっており、世界的規模で低炭素社会の実現に向けた取組が加速。千歳市でも、市民、事業者、市（行政）が一体となり取組を進めていくこと、市民一人ひとりの環境に対する関心や理解をさらに高めることが大切。
- 千歳市は、良好な水質や清涼な大気が確保されているとともに、北海道でも数少ない人口が増加しているまちであり、今後も、健康で暮らしやすい生活環境の保全が必要。また、暮らしに身近で取り組みやすいごみの減量や資源のリサイクルを、今後も充実させていくことが必要。
- 千歳市は、豊かな自然環境に恵まれたまちであり、日常生活のなかでも自然を身近に感じることができる。様々な動植物と人の暮らしが調和した環境の維持には、自然環境の保全と合わせて、自然と共生する考え方や取組が重要。



■5つの取組分野の基本目標



4-3 計画の体系



取組の項目	主な取組地域
1) 温室効果ガスの排出削減 1) 省エネルギーの推進 2) 事業者の環境配慮行動の促進 3) 再生可能エネルギーの導入推進 1) 地産地消の促進 2) 日常生活における市民のエコ意識の醸成 3) 事業所のエコ意識の醸成	空港・市街地地域
1) 大気環境の安全安心 2) 水質及び水系の保全 3) 健全な水循環の推進 4) 事業活動における水質汚濁の防止・抑制 5) ダイオキシン類対策 6) 悪臭対策 7) 土壌汚染対策 1) 騒音・振動対策 1) 公園・緑地等の充実・維持管理 2) コンパクトな都市の形成と公共交通ネットワークの充実 3) 地域の環境保持の推進	自然公園等の地域 空港・市街地地域 農業地域 空港・市街地地域
1) 自然環境の保全 2) 自然環境の活用・空間形成 3) 市民や事業者への取組支援 4) 他団体との連携 1) 森林・河川等の保全による生態系の管理 2) 農地整備や開発行為の際の生態系管理への配慮 3) 野生動物の保護・管理 4) 外来生物への対応 5) 市民や事業者への意識啓発 6) 他団体との連携	自然公園等の地域 空港・市街地地域 自然公園等の地域 空港・市街地地域 農業地域
1) 家庭ごみの減量化 2) 事業・産業廃棄物の減量化 3) ごみの適正排出・処理の推進 1) 市民によるリサイクルの促進 2) 事業所におけるリサイクルの促進 3) リサイクルに関する普及啓発 4) 多様な主体との連携によるリサイクルの推進	空港・市街地地域 農業地域 空港・市街地地域
1) 環境教育・人材育成 2) 環境に関する情報発信 1) 環境活動への活動支援・参加促進 2) SDGs の普及啓発 1) 主体間の連携促進 2) 情報発信	自然公園等の地域 空港・市街地地域 農業地域

4-4 取組地域

望ましい環境像の実現に向けて、5つの取組分野の基本目標に基づき、計画の対象地域としている「自然公園等の地域」、「空港・市街地地域」、「農業地域」ごとに取組を推進していきます。

自然公園等の地域

市域の西部は、国立公園に指定されている支笏湖地域と国有林野や千歳市自然環境保全地区（千歳川河川区域、ウサクマイ遺跡及び内別川流域や青葉公園）などです。

【取組を展開する主な分野】

- 環境保全
- 自然共生
- 環境教育・パートナーシップ

空港・市街地地域

市域の中央部は、市街地や工業団地、空港、防衛施設などがある都市機能の中心地です。

【取組を展開する主な分野】

- 地球温暖化防止
- 環境保全
- 自然共生
- 資源循環
- 環境教育・パートナーシップ

農業地域

市域の東部は丘陵地帯で、畑作を中心に畜産業が営まれています。

【取組を展開する主な分野】

- 環境保全
- 自然共生
- 資源循環
- 環境教育・パートナーシップ



支笏湖



新千歳空港



パレットの丘